

## 平成27年度 筑波大学 2次試験前期日程(数学問題)120分

- 社会学類は [1], [2] から1題選択, [3] 必答(数II・B), 及び他教科との選択
- 国際総合・障害科学類は, 数II・B選択の場合は [1], [2] から1題選択, [3] 必答. 数III選択の場合は [4], [5] から1題選択, [6], [7] から1題選択
- 教育・心理学類は [1] ~ [3] 必答, [4] ~ [7] から1題選択
- 生物資源・生物・地球・数学・物理・化学・応用理工・工学システム・情報科学類は [1] ~ [3] から2題選択, [4], [5] 必答, [6], [7] から1題選択
- 情報メディア創生学類は [1], [2] から1題選択, [3] ~ [5] 必答, [6], [7] から1題選択
- 知識情報・図書館学類は [1], [2] から1題選択, [3] 必答, または [6] ~ [6] から2題選択, または [4], [5], [7] から2題選択及び他教科との選択
- 社会工学類は [1] ~ [3] から1題選択, [4], [5] 必答, [6], [7] から1題選択
- 医学・医療学類は [1] ~ [3] から2題選択, [4], [5] 必答, [6], [7] から1題選択

[1] 以下の問いに答えよ.

(1) 座標平面において, 次の連立不等式の表す領域を図示せよ.

$$\begin{cases} x^2 + y \leq 1 \\ x - y \leq 1 \end{cases}$$

(2) 2つの放物線  $y = x^2 - 2x + k$  と  $y = -x^2 + 1$  が共有点をもつような実数  $k$  の値の範囲を求めよ.

(3)  $x, y$  が (1) の連立不等式を満たすとき,  $y - x^2 + 2x$  の最大値および最小値と, それらを与える  $x, y$  の値を求めよ.

[2] 半径1の円を内接円と三角形ABCが, 辺ABと辺ACの長さが等しい二等辺三角形であるとする. 辺BC, CA, ABと内接円の接点をそれぞれP, Q, Rとする. また,  $\alpha = \angle CAB$ ,  $\beta = \angle ABC$ とし, 三角形ABCの面積を  $S$  とする.

(1) 線分AQの長さを  $\alpha$  を用いて表し, 線分QCの長さを  $\beta$  を用いて表せ.

(2)  $t = \tan \frac{\beta}{2}$  とおく. このとき,  $S$  を  $t$  を用いて表せ.

(3) 不等式  $S \geq 3\sqrt{3}$  が成り立つことを示せ. さらに, 等号が成立するのは, 三角形ABCが正三角形のときに限ることを示せ.

- 3  $p$  と  $q$  は正の整数とする. 2次方程式  $x^2 - 2px - q = 0$  の2つの実数解を  $\alpha, \beta$  とする. ただし  $\alpha > \beta$  とする. 数列  $\{a_n\}$  を

$$a_n = \frac{1}{2}(\alpha^{n-1} + \beta^{n-1}) \quad (n = 1, 2, 3, \dots)$$

によって定める. ただし  $\alpha^0 = 1, \beta^0 = 1$  と定める.

- (1) すべての自然数  $n$  に対して,  $a_{n+2} = 2pa_{n+1} + qa_n$  であることを示せ.  
 (2) すべての自然数  $n$  に対して,  $a_n$  は整数であることを示せ.  
 (3) 自然数  $n$  に対し,  $\frac{\alpha^{n-1}}{2}$  以下の最大の整数を  $b_n$  とする.  $p$  と  $q$  が  $q < 2p + 1$  を満たすとき,  $b_n$  を  $a_n$  を用いて表せ.
- 4  $f(x) = \log(e^x + e^{-x})$  とおく. 曲線  $y = f(x)$  の点  $(t, f(t))$  における接線を  $l$  とする. 直線  $l$  と  $y$  軸の交点の  $y$  座標を  $b(t)$  とおく.

- (1) 次の等式を示せ.

$$b(t) = \frac{2te^{-t}}{e^t + e^{-t}} + \log(1 + e^{-2t})$$

- (2)  $x \geq 0$  のとき,  $\log(1 + x) \leq x$  であることを示せ.  
 (3)  $t \geq 0$  のとき,

$$b(t) \leq \frac{2}{e^t + e^{-t}} + e^{-2t}$$

であることを示せ.

- (4)  $b(0) = \lim_{x \rightarrow \infty} \int_0^x \frac{4t}{(e^t + e^{-t})^2} dt$  であることを示せ.

- 5  $f(x), g(x), h(x)$  を

$$f(x) = \frac{1}{2}(\cos x - \sin x)$$

$$g(x) = \frac{1}{\sqrt{2}} \sin \left( x + \frac{\pi}{4} \right)$$

$$h(x) = \sin x$$

とおく. 3つの曲線  $y = f(x), y = g(x), y = h(x)$  の  $0 \leq x \leq \frac{\pi}{2}$  を満たす部分を, それぞれ  $C_1, C_2, C_3$  とする.

- (1)  $C_2$  と  $C_3$  の交点の座標を求めよ.  
 (2)  $C_1$  と  $C_3$  の交点の  $x$  座標を  $\alpha$  とする.  $\sin \alpha, \cos \alpha$  の値を求めよ.  
 (3)  $C_1, C_2, C_3$  によって囲まれる図形を求めよ.

**6**  $\alpha$  を実数でない複素数とし、 $\beta$  を正の実数とする。以下の問いに答えよ。ただし、複素数  $w$  に対してその共役複素数を  $\bar{w}$  で表す。

- (1) 複素数平面上で、関係式  $\alpha\bar{z} + \bar{\alpha}z = |z|^2$  を満たす複素数  $z$  の描く図形を  $C$  とする。このとき、 $C$  は原点を通る円であることを示せ。
- (2) 複素数平面上で、 $(z - \alpha)(\beta - \bar{\alpha})$  が純虚数となる複素数  $z$  の描く図形を  $L$  とする。 $L$  は (1) で定めた  $C$  と 2 つの共有点をもつことを示せ。また、その 2 点を  $P$ ,  $Q$  とするとき、線分  $PQ$  の長さを  $\alpha$  と  $\bar{\alpha}$  を用いて表す。
- (3)  $\beta$  の表す複素数平面上の点を  $R$  とする。(2) で定めた点  $P$ ,  $Q$  と点  $R$  を頂点とする三角形が正三角形であるとき、 $\beta$  を  $\alpha$  と  $\bar{\alpha}$  を用いて表せ。

**7** (旧課程受験者用の選択問題)

$\alpha, \beta$  は異なる 2 つの実数とする。座標平面において 2 点  $(\alpha, 1)$ ,  $(\beta, 1)$  をそれぞれ点  $(\alpha^2, \alpha)$ ,  $(\beta^2, \beta)$  に移す 1 次変換を表す行列を  $A$  とする。自然数  $n$  に対し、点  $P_n(x_n, y_n)$  を

$$\begin{pmatrix} x_1 \\ y_1 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 1 \\ 0 \end{pmatrix}, \quad \begin{pmatrix} x_{n+1} \\ y_{n+1} \end{pmatrix} = A \begin{pmatrix} x_n \\ y_n \end{pmatrix} \quad (n = 1, 2, 3, \dots)$$

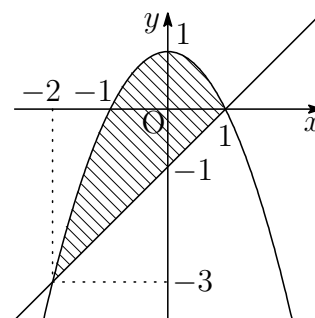
によって定める。

- (1)  $Q = \begin{pmatrix} \alpha & \beta \\ 1 & 1 \end{pmatrix}$  とおくと  $AQ = Q \begin{pmatrix} \alpha & 0 \\ 0 & \beta \end{pmatrix}$  となることを示せ。
- (2) 数列  $\{x_n\}$ ,  $\{y_n\}$  の一般項を求めよ。
- (3) 点  $P_2, P_3, P_4, \dots$  がすべて直線  $y = \frac{1}{2}x$  上にあるような  $\alpha, \beta$  を 1 組求め、そのときの行列  $A$  を求めよ。

## 解答例

$$\boxed{1} \quad (1) \quad \begin{cases} x^2 + y \leq 1 \\ x - y \leq 1 \end{cases} \quad \text{ゆえに} \quad \begin{cases} y \leq -x^2 + 1 \\ y \geq x - 1 \end{cases}$$

求める領域は、右の図の斜線部分で、境界線を含む。



(2)  $y = x^2 - 2x + k$  と  $y = -x^2 + 1$  から  $y$  を消去して整理すると

$$2x^2 - 2x + k - 1 = 0 \quad \dots \textcircled{1}$$

このとき、この2次方程式が実数解をもつから

$$D/4 = (-1)^2 - 2(k-1) \geq 0 \quad \text{これを解いて} \quad k \leq \frac{3}{2}$$

(3)  $y - x^2 + 2x = k$  とおくと

$$\begin{aligned} y &= x^2 - 2x + k \quad \dots (*) \\ &= (x-1)^2 + k - 1 \end{aligned}$$

この放物線の軸は  $x = 1$  である。

$k$  が最大となるのは、(\*) が  $y = -x^2 + 1$  に接するときであるから、(2)の結果において  $D = 0$  とすると

$$k = \frac{3}{2}$$

これを ① に代入すると

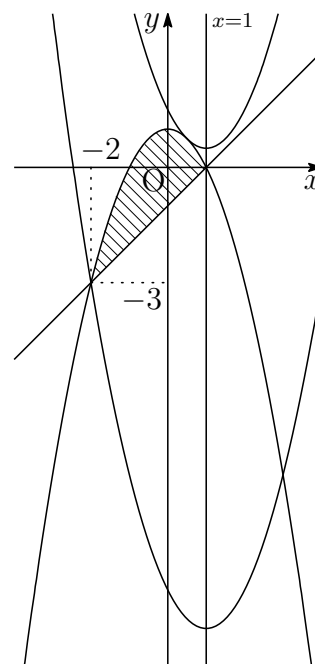
$$2x^2 - 2x + \frac{3}{2} - 1 = 0 \quad \text{ゆえに} \quad x = \frac{1}{2}$$

$k$  と  $x$  の値を (\*) に代入すると  $y = \frac{3}{4}$

$k$  が最小となるのは、点  $(-2, -3)$  を通るときで、 $k = -11$

よって  $x = \frac{1}{2}$ ,  $y = \frac{3}{4}$  のとき最大値  $\frac{3}{2}$ ,

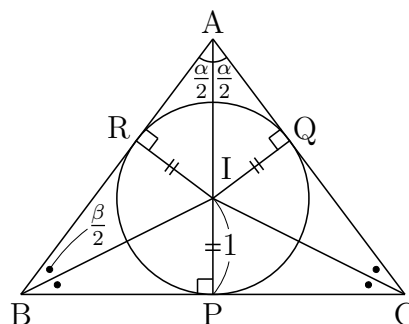
$x = -2$ ,  $y = -3$  のとき最小値  $-11$



2 (1) 右の図から

$$AQ = \frac{IQ}{\tan \frac{\alpha}{2}} = \frac{1}{\tan \frac{\alpha}{2}}$$

$$QC = \frac{IQ}{\tan \frac{\beta}{2}} = \frac{1}{\tan \frac{\beta}{2}}$$



(2) (1) の結果から

$$AB + BC + CA = 2AQ + 4QC = \frac{2}{\tan \frac{\alpha}{2}} + \frac{4}{\tan \frac{\beta}{2}}$$

$A + B + C = \alpha + 2\beta = \pi \cdots \textcircled{1}$  より,  $\frac{\alpha}{2} = \frac{\pi}{2} - \beta$  であるから

$$\frac{1}{\tan \frac{\alpha}{2}} = \frac{1}{\tan(\frac{\pi}{2} - \beta)} = \tan \beta = \frac{2 \tan \frac{\beta}{2}}{1 - \tan^2 \frac{\beta}{2}} = \frac{2t}{1 - t^2}$$

上の 2 式から  $AB + BC + CA = \frac{4t}{1 - t^2} + \frac{4}{t} = \frac{4}{t(1 - t^2)}$

よって  $S = \frac{1}{2}IP(AB + BC + CA) = \frac{1}{2} \cdot 1 \cdot \frac{4}{t(1 - t^2)} = \frac{2}{t(1 - t^2)}$

(3)  $t = \tan \frac{\beta}{2}$  ( $0 < \beta < \frac{\pi}{2}$ ) より  $0 < t < 1$

$$\frac{2}{S} = f(t) = t(1 - t^2) = t - t^3 \text{ とすると } (0 < t < 1) \quad f'(t) = 1 - 3t^2$$

$t$	(0)	$\cdots$	$\frac{1}{\sqrt{3}}$	$\cdots$	(1)
$f'(t)$		+	0	-	
$f(t)$		$\nearrow$	$\frac{2}{3\sqrt{3}}$	$\searrow$	

したがって  $\frac{2}{S} \leq \frac{2}{3\sqrt{2}}$  ゆえに  $S \geq 3\sqrt{2} \cdots (*)$

上式において, 等号が成立するのは

$$\tan \frac{\beta}{2} = \frac{1}{\sqrt{3}} \text{ ゆえに } \beta = \frac{\pi}{3} \text{ これを } \textcircled{1} \text{ に代入して } \alpha = \frac{\pi}{3}$$

(\*) において, 等号が成立するのは,  $\alpha = \beta = \frac{\pi}{3}$ , すなわち,  $\triangle ABC$  が正三角形のときに限る.

3 (1)  $\alpha, \beta$  は 2 次方程式  $x^2 - 2px - q = 0$  の解であるから

$$\begin{cases} \alpha^2 - 2p\alpha - q = 0 \\ \beta^2 - 2p\beta - q = 0 \end{cases} \quad \text{ゆえに} \quad \begin{cases} \alpha^{n+2} = 2p\alpha^{n+1} + q\alpha^n \\ \beta^{n+2} = 2p\beta^{n+1} + q\beta^n \end{cases}$$

$$\text{したがって} \quad \frac{1}{2}(\alpha^{n+2} + \beta^{n+2}) = 2p \cdot \frac{1}{2}(\alpha^{n+1} + \beta^{n+1}) + q \cdot \frac{1}{2}(\alpha^n + \beta^n)$$

$$a_{n+2} = 2pa_{n+1} + qa_n \quad \cdots (*)$$

(2) 2 次方程式の解と係数の関係により  $\alpha + \beta = 2p, \alpha\beta = -q$

$$\text{ゆえに} \quad a_1 = \frac{1}{2}(\alpha^0 + \beta^0) = 1, \quad a_2 = \frac{1}{2}(\alpha + \beta) = p$$

$a_1, a_2$  は整数で, 漸化式 (\*) により,  $a_n$  は整数である.

(3)  $f(x) = x^2 - 2px - q$  とおくと,  $q > 0, q < 2p + 10$  であるから

$$\begin{aligned} f(-1) &= 2p - q + 1 > 0, & f(0) &= -q < 0, \\ f(2p) &= -q < 0, & f(2p + 1) &= 2p - q + 1 > 0 \end{aligned}$$

$$\text{したがって} \quad -1 < \beta < 0, \quad 2p < \alpha < 2p + 1$$

$$a_n = \frac{\alpha^{n-1}}{2} + \frac{\beta^{n-1}}{2} \text{ であるから}$$

(i)  $n$  が奇数のとき,  $0 < \frac{\beta^{n-1}}{2} \leq \frac{1}{2}$  より

$$0 < a_n - \frac{\alpha^{n-1}}{2} \leq \frac{1}{2} \quad \text{ゆえに} \quad a_n - \frac{1}{2} \leq \frac{\alpha^{n-1}}{2} < a_n$$

$$\text{したがって} \quad b_n = a_n - 1$$

(ii)  $n$  が偶数のとき,  $-\frac{1}{2} < \frac{\beta^{n-1}}{2} < 0$  より

$$-\frac{1}{2} < a_n - \frac{\alpha^{n-1}}{2} < 0 \quad \text{ゆえに} \quad a_n < \frac{\alpha^{n-1}}{2} < a_n + \frac{1}{2}$$

$$\text{したがって} \quad b_n = a_n$$

$$\text{よって} \quad b_n = \begin{cases} a_n - 1 & (n \text{ が奇数}) \\ a_n & (n \text{ が偶数}) \end{cases}$$

$$\boxed{4} \quad (1) \quad f(x) = \log(e^x + e^{-x}) \text{ より } f'(x) = \frac{e^x - e^{-x}}{e^x + e^{-x}} = -\frac{2e^{-x}}{e^x + e^{-x}} + 1$$

曲線  $y = f(x)$  上の点  $(t, f(t))$  における接線  $\ell$  の方程式は

$$y - f(t) = f'(t)(x - t) \quad \text{ゆえに} \quad y = f'(t)x - tf'(t) + f(t)$$

したがって、 $\ell$  と  $y$  軸との交点の  $y$  座標  $b(t)$  は

$$\begin{aligned} b(t) &= -tf'(t) + f(t) \quad \cdots (*) \\ &= -t \left( -\frac{2e^{-t}}{e^t + e^{-t}} + 1 \right) + \log(e^t + e^{-t}) \\ &= \frac{2te^{-t}}{e^t + e^{-t}} + \log e^{-t} + \log(e^t + e^{-t}) = \frac{2te^{-t}}{e^t + e^{-t}} + \log(1 + e^{-2t}) \end{aligned}$$

$$(2) \quad g(x) = x - \log(1 + x) \text{ とおくと } (x \geq 0)$$

$$g'(x) = 1 - \frac{1}{1+x} = \frac{x}{1+x}$$

$g(0) = 0$ ,  $x > 0$  において,  $g'(x) > 0$  であるから,  $x \geq 0$  において

$$g(x) \geq g(0) \quad \text{すなわち} \quad x - \log(1 + x) \geq 0$$

よって  $x \geq 0$  において  $\log(1 + x) \leq x$

$$(3) \quad (2) \text{ の結果から, } t \geq 0 \text{ のとき } t < 1 + t \leq e^t \quad \text{ゆえに} \quad te^{-t} \leq 1$$

また,  $e^{-2t} > 0$  より  $\log(1 + e^{-2t}) \leq e^{-2t}$

$$\text{よって} \quad b(t) = \frac{2te^{-t}}{e^t + e^{-t}} + \log(1 + e^{-2t}) \leq \frac{2}{e^t + e^{-t}} + e^{-2t}$$

$$(4) \quad f'(x) = \frac{e^x - e^{-x}}{e^x + e^{-x}} \text{ より}$$

$$f''(x) = \frac{(e^x - e^{-x})'(e^x + e^{-x}) - (e^x - e^{-x})(e^x + e^{-x})'}{(e^x + e^{-x})^2} = \frac{4}{(e^x + e^{-x})^2}$$

$$(*) \text{ より } b'(t) = -tf''(t) = -\frac{4t}{(e^t + e^{-t})^2}$$

$$\text{したがって} \quad \int_0^x \frac{4t}{(e^t + e^{-t})^2} dt = -\int_0^x b'(t) dt = b(0) - b(x)$$

$$(3) \text{ の結果から } 0 \leq b(x) \leq \frac{2}{e^x + e^{-x}} + e^{-2x} \quad \text{ゆえに} \quad \lim_{x \rightarrow \infty} b(x) = 0$$

$$\text{よって} \quad \lim_{x \rightarrow \infty} \int_0^x \frac{4t}{(e^t + e^{-t})^2} dt = b(0)$$

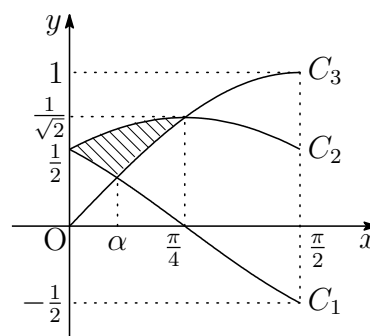
5 (1)  $g(x) = \frac{1}{\sqrt{2}} \sin\left(x + \frac{\pi}{4}\right) = \frac{1}{2}(\sin x + \cos x)$

$C_2 : y = \frac{1}{2}(\sin x + \cos x)$  と  $C_3 : y = \sin x$  から

$$\frac{1}{2}(\sin x + \cos x) = \sin x$$

整理すると  $\sin x = \cos x$

$0 \leq x \leq \frac{\pi}{2}$  より, 求める交点は  $\left(\frac{\pi}{4}, \frac{1}{\sqrt{2}}\right)$



(2)  $C_1 : y = \frac{1}{2}(\cos x - \sin x)$  と  $C_3 : y = \sin x$  の交点の  $x$  座標が  $\alpha$  であるから

$$\frac{1}{2}(\cos \alpha - \sin \alpha) = \sin \alpha \quad \text{ゆえに} \quad 3 \sin \alpha = \cos \alpha$$

$0 \leq \alpha \leq \frac{\pi}{2}$  より  $\sin \alpha = \frac{1}{\sqrt{10}}, \quad \cos \alpha = \frac{3}{\sqrt{10}}$

(3) 求める面積を  $S$  とすると

$$\begin{aligned} S &= \int_0^{\alpha} \{g(x) - f(x)\} dx + \int_{\alpha}^{\frac{\pi}{4}} \{g(x) - h(x)\} dx \\ &= \int_0^{\alpha} \sin x dx + \frac{1}{2} \int_{\alpha}^{\frac{\pi}{4}} (\cos x - \sin x) dx \\ &= \left[ -\cos x \right]_0^{\alpha} + \frac{1}{2} \left[ \sin x + \cos x \right]_{\alpha}^{\frac{\pi}{4}} \\ &= 1 + \frac{\sqrt{2}}{2} - \frac{1}{2} \sin \alpha - \frac{3}{2} \cos \alpha \\ &= 1 + \frac{\sqrt{2}}{2} - \frac{1}{2} \cdot \frac{1}{\sqrt{10}} - \frac{3}{2} \cdot \frac{3}{\sqrt{10}} \\ &= 1 + \frac{\sqrt{2}}{2} - \frac{\sqrt{10}}{2} \end{aligned}$$



- 6 (1)  $\alpha\bar{z} + \bar{\alpha}z = |z|^2$  より

$$z\bar{z} - \alpha\bar{z} - \bar{\alpha}z + \alpha\bar{\alpha} = \alpha\bar{\alpha} \quad \text{ゆえに} \quad (z - \alpha)(\bar{z} - \bar{\alpha}) = \alpha\bar{\alpha}$$

したがって  $|z - \alpha|^2 = |\alpha|^2$  すなわち  $|z - \alpha| = |\alpha|$

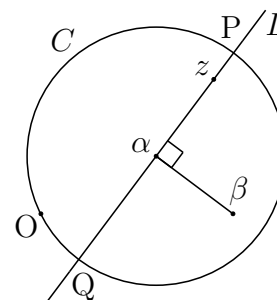
$C$  は点  $\alpha$  を中心とする半径  $|\alpha|$  であるから、 $C$  は原点を通る円である。

- (2)  $\beta$  が実数であることに注意して

$$(z - \alpha)(\beta - \bar{\alpha}) = \frac{|\beta - \alpha|^2(z - \alpha)}{\beta - \alpha}$$

$\frac{z - \alpha}{\beta - \alpha}$  が純虚数であるから、 $z$  は点  $\alpha$  を通り、  
2点  $\alpha, \beta$  を通る直線に垂直である。

$\alpha$  は  $C$  の中心であるから、 $PQ$  は  $C$  の直径である。よって  $PQ = 2|\alpha| = 2\sqrt{\alpha\bar{\alpha}}$



- (3)  $\triangle PQR$  が正三角形であるとき、(2)の結果から、 $\triangle PQR$  の一辺の長さは  $2|\alpha|$  である。これから

$$|\beta - \alpha| = \sqrt{3}|\alpha|$$

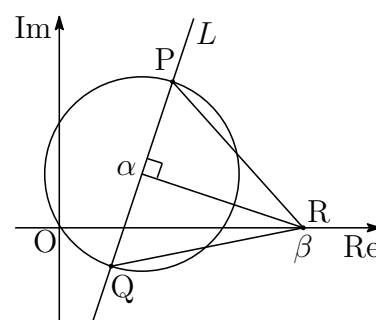
$\beta$  が実数であることに注意して

$$(\beta - \alpha)(\beta - \bar{\alpha}) = 3\alpha\bar{\alpha}$$

整理すると  $\beta^2 - (\alpha + \bar{\alpha})\beta - 2\alpha\bar{\alpha} = 0$

$\beta > 0$  であることに注意して、これを解くと

$$\beta = \frac{\alpha + \bar{\alpha} + \sqrt{\alpha^2 + 10\alpha\bar{\alpha} + \bar{\alpha}^2}}{2}$$



- 7 (1) 2点  $(\alpha, 1)$ ,  $(\beta, 1)$  をそれぞれ  $(\alpha^2, \alpha)$ ,  $(\beta^2, \beta)$  に移す 1 次変換を表す行列が  $A$  であるから

$$A \begin{pmatrix} \alpha & \beta \\ 1 & 1 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} \alpha^2 & \beta^2 \\ \alpha & \beta \end{pmatrix}$$

$$\begin{aligned} \alpha - \beta \neq 0 \text{ であるから } \quad A &= \frac{1}{\alpha - \beta} \begin{pmatrix} \alpha^2 & \beta^2 \\ \alpha & \beta \end{pmatrix} \begin{pmatrix} 1 & -\beta \\ -1 & \alpha \end{pmatrix} \\ &= \begin{pmatrix} \alpha + \beta & -\alpha\beta \\ 1 & 0 \end{pmatrix} \end{aligned}$$

$$\text{これと } Q = \begin{pmatrix} \alpha & \beta \\ 1 & 1 \end{pmatrix} \text{ より}$$

$$\begin{aligned} AQ &= \begin{pmatrix} \alpha + \beta & -\alpha\beta \\ 1 & 0 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} \alpha & \beta \\ 1 & 1 \end{pmatrix} \\ &= \begin{pmatrix} \alpha^2 & \beta^2 \\ \alpha & \beta \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} \alpha & \beta \\ 1 & 1 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} \alpha & 0 \\ 0 & \beta \end{pmatrix} = Q \begin{pmatrix} \alpha & 0 \\ 0 & \beta \end{pmatrix} \end{aligned}$$

$$(2) \det Q = \alpha - \beta \neq 0 \text{ であるから, (1) の結果より } Q^{-1}AQ = \begin{pmatrix} \alpha & 0 \\ 0 & \beta \end{pmatrix}$$

$$\text{したがって } Q^{-1}A^{n-1}Q = \begin{pmatrix} \alpha^{n-1} & 0 \\ 0 & \beta^{n-1} \end{pmatrix}$$

$$\begin{aligned} \text{これから } A^{n-1} &= Q \begin{pmatrix} \alpha^{n-1} & 0 \\ 0 & \beta^{n-1} \end{pmatrix} Q^{-1} \\ &= \frac{1}{\alpha - \beta} \begin{pmatrix} \alpha^n - \beta^n & -\alpha^n\beta + \alpha\beta^n \\ \alpha^{n-1} - \beta^{n-1} & -\alpha^{n-1}\beta + \alpha\beta^{n-1} \end{pmatrix} \end{aligned}$$

$$\begin{pmatrix} x_1 \\ y_1 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 1 \\ 0 \end{pmatrix} \text{ より}$$

$$\begin{pmatrix} x_n \\ y_n \end{pmatrix} = A^{n-1} \begin{pmatrix} x_1 \\ y_1 \end{pmatrix} = \frac{1}{\alpha - \beta} \begin{pmatrix} \alpha^n - \beta^n \\ \alpha^{n-1} - \beta^{n-1} \end{pmatrix}$$

- (3) (2) の結果から,  $\alpha = 2$ ,  $\beta = 0$  とすればよいから

$$A = \begin{pmatrix} 2 & 0 \\ 1 & 0 \end{pmatrix}$$